

増上寺所蔵三大蔵電子化公開に関するシンポジウム

①増上寺所蔵三大蔵と電子化の意義

1. 大蔵経と増上寺所蔵三大蔵

— 1. そもそも大蔵経とは？

◇もしも世界文学大全集を作るなら

優れた作品をなるべく多く収集し人類全体の文化として広める

全集としてまとめて散逸しないように保存する 文法の研究や文言評論も？

・ A 社版世界文学大全集 ○○地域 ××時代

・ B 社版世界文学第全集 △△地域 ◇◇時代

・ C 社版世界文学第全集 ☆☆地域 ◇◇時代

◇仏教 教え「経」 修行上の規則「律」 教えの研究「論」

経蔵 律蔵 論蔵 = 三蔵 (*三蔵に精通した高僧=三蔵法師)

◇大蔵経 三蔵の集大成(一切経とも)

仏教が伝わっていくなかで(口伝え 筆記したもの 印刷物)

それぞれの時代・地域において 仏教のすべてを整理分類・系統立てしながら

記録し 仏教を弘め 後世に伝える壮大な営み いわば仏教のデータベース化

— 2. 増上寺所蔵三大蔵

・「宋版」 中国において南宋時代(12世紀)に開版された大蔵経 5342帖

・「元版」 中国において元時代(13世紀)に開版された大蔵経 5228帖

・「高麗版」 朝鮮半島において高麗時代(13世紀)に開版された大蔵経 1357冊

→ 日本にもたらされたのち徳川家康が収集し増上寺に寄進

→ 明治、大正時代になって日本における新たな大蔵経編纂の礎に

2. 三大蔵から『縮刷大蔵経』、そして『大正新脩大蔵経』へ

— 1. 『大日本校訂大蔵』(『縮刷大蔵経』)

◇明治初頭

金属の活字による印刷の技法を導入した大蔵経の編纂

増上寺御住職 福田行誠上人 増上寺経蔵を開放 三大蔵の閲覧を許可

三大蔵を底本や校本としさらに中国や日本の仏教書籍も加えた大蔵経の編纂

— 2. 『大正新脩大蔵経』

◇18世紀後半ヨーロッパ

インドと出逢いインド学が誕生 仏教が研究対象となる 近代仏教学

明治維新後 若き日本の僧侶が留学 日本における近代仏教学の導入

◇大正時代

『縮刷大蔵経』が高価であるうえ入手困難　より学術的な大蔵経が望まれる
増上寺所蔵三大蔵などをベースに他の文献情報を盛り込んだ大蔵経が編纂
＝ 『大正新脩大蔵経』 今日なおも色あせない学術的な価値

◇『大正新脩大蔵経』の現在

仏教学研究における基本文献としてのグローバルスタンダード
近現代の仏教学を支えている『大正新脩大蔵経』

◇三大蔵の現在

『大正新脩大蔵経』を支えている増上寺所蔵三大蔵
近現代を通じ今現在に至るまで世界における仏教学研究の基盤

◇『大正新脩大蔵経』と浄土宗の縁

編纂　＝　高楠順次郎　渡辺海旭（浄土宗僧侶）　小野玄妙（浄土宗僧侶）

3. 『大正新脩大蔵経』の電子化

—1. その分量

◇正編 55 巻、続編 30 巻、図像部などの別巻 15 巻　全 100 巻
3 段組 29 行 17 字（1500 文字弱）　各巻平均 1,000 ページに及ぶ大全集

—2. 『大正新脩大蔵経』電子化

◇1990 年代以降におけるコンピューター技術の進歩と普及

日本と台湾における『大正新脩大蔵経』の電子化

◇SAT 大正新脩大蔵経テキストデータベースが WEB 公開（2008）

単純計算で 1 億 2 千万を超える文字情報にパソコンからアクセスが可能

—3. 進歩する技術のなかで

◇厳重に保管された貴重な史料が電子化された画像となって WEB 上で公開

◇今日における『大正新脩大蔵経』の学術的な価値　←　三大蔵との対照が必要

◇三大蔵に先んじた他の大蔵経の画像公開

◇『大正新脩大蔵経』電子化と浄土宗の縁

電子化を牽引　江島恵教東京大学教授（浄土宗寺院のご出身）

4. 三大蔵電子化および画像公開の意義

—1. インターネット上に存在しないものはこの世に存在するとは認められない？時代

◇三大蔵の電子化もまた大蔵経を編纂するという壮大な営みの一翼を担うもの

◇WEB 上での画像公開が新たな仏教（研究）のありようをもたらすのではないか

—2. ユネスコ「世界の記憶」の制度と目的から

◇「人類史において特に重要な記録物」の「存在及び重要性の認識を高める」

* 仏教の興隆、人類の文化のために総大本山はじめ浄土宗ができることの一つ　（了）